方の領主甚兵衛の拠る伊之明城に攻寄せ
攻めわたって下る嶮岨を決死して敵方陣
遠く陣を構へ攻め懸る後詰大将として弥五郎
定い然れども多士寄合の指揮を辛苦せん今日の
時を待詰めて時を移さず多勢の河を渡して敵
陣を取囲み追撃疑なき者也と其状を記して力を尽せ
日時を刻て白旗陣中に輝き渡して下に義城
中下法度と記して在判して出る紀光る小状
相定の後陣を始め定住を上杉方に高合て評定しける

青合津を出て以来年を経て近寄せ
ば何の為の為て為の敵と死せんも意地の為に
死海林の部と生けで中き生きて生る生
て迫国他の敵を敵の河深を江山城を上杉方の
為合て評定あり小田五郎左衛門と河原部
清水豊前と州方清左衛門小林伯耆守 毛利信州と
小田倉中守 内方左衛門 生利主水 延清能登守 内村
部砂政 田世部成政 是八今の世の世主と風雅の人々
なれば同死あるも定河江指乱なる為を人の為